

八王子千人同心日光往還ウォーク第23回レポート

第23回館林駅から田島駅

実施日 2023（令和5）年4月19日（水）天候 晴れ 気温高いが風さわやか

参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計4名

GPSデータ

歩行距離：10.6km。 累計歩行距離 216.3km。

全体所要時間：3時間47分。移動時間：2時間56分。停止時間：51分。

移動平均速度：3.60km/h。全体平均速度：2.81km/h。



9時28分に館林駅西口を出発。今日は館林城惣郭内の西側から佐野口御門跡で館林城を出、日光往還を北上する行程。ロータリーから入った先の空き地の角に「小泉口御門跡」の石柱が立っている。（9：30）ここが館林城下の西南端である。ロータリーの北に正田記念館がある。（9：35）江戸時代末期に居宅・店舗（米穀商）として創建した建物で、登録有形文化財に指定されている。現在は記念館として、正田家300年の家系図や醸造道具他記念品を陳列されている。

東武鉄道の踏切を渡り、これから先は館林城下を囲んでいた堀と土塁の内側にあった寺社をめぐる。まず「覚応寺」がある。（9：39～43）その北側に館林城内・城下に時を知らせる鐘がある応声寺がある。（9：45）その北に古墳の上に本殿があり、傍らにガラス張りの小屋の中に「青石地藏板碑」が安置されている「愛宕神社」（9：54～10：01）、県道（大手門から続く）を左折、「法泉寺」の斜め前に「太田口御門跡」の石柱がある。（10：06）

法泉寺（10：09～12）は室町幕府八代将軍足利義政が隠居後創建、その後荒廃したが慶長年間館林藩主榊原康政によって再建された。

法泉寺から大手門の方へ戻り、龍神酒蔵（株）の先を左折し、小学校の前に邑楽護国神社の参道があり（10：22）、その長い参道の先に「邑楽護国神社」がある。（10：24～26）当社は、明治2年に館林藩主秋元礼朝が戊辰の役の戦没者を近藤村に祠を建て祀り、明治10年に西南の役戦没者を合祀。明治14年に現在地に遷座。

邑楽護国神社の北隣に長良神社がある。参拝し休憩。（10：28～37）当社の祭神は贈太政大臣

正一位藤原冬嗣の長子で、贈太政大臣正一位藤原長良公。館林市惣鎮守。

長良神社の鳥居を潜って進むと「五宝寺」がある。(10:41~47) 境内に群馬県指定重要文化財に指定されている「不動まんだら板碑」がある。

五宝寺から江戸口御門から続く中央通り(日光往還)を左折し、少し下った所の濠の脇に「佐野口御門跡」の石柱がある。(10:52)

佐野口御門跡の西側に城下を囲む堀・土塁跡があるので見に行く。中央通りに戻り左折、交差点の先の変則四叉路の角に2個の「道標」がある。(11:02)「さの とちぎ 道」「かんま ひこ満 道」と刻まれた道標と「らいでん道」と刻まれた道標である。

四叉路の一番右側の道を500m程進んだ信号交差点の直ぐ先の左へ入る道は東武佐野線渡瀬駅に行く。そのまま直進し佐野線の踏切を渡って(11:16)更に1km強進んだ渡良瀬川の堤防の手前に公園があった。ベンチ・トイレがあるのでここで昼食とする。(11:33~54)

昼食後、渡良瀬川の堤防を上ると河原に石仏群が見えるので下りて見に行く。(11:57)ものすごい数の石仏は全て馬頭観音であった。

堤防上に戻り、少し下流の県道の渡良瀬大橋を渡る。(12:05~13)橋長は551.8mで、渡るのに8分ほどかかった。堤防上を上流へ進むと「田中正造翁之墓入口」の看板があり、下って堤防に沿って行くと雲竜寺の山門がある。(12:18~22)山門を入れて参道の左側に「田中正造翁の墓」と「救現堂」がある。田中正造は大正2年(1913)9月4日に栃木県足利郡吾妻村(現栃木県佐野市下羽田町)の庭田清四郎宅で73歳で没し、当雲竜寺で仮葬儀(密葬)が行われ、本葬儀は惣宗寺(佐野厄除け大師)で行われ、遺骨は当雲竜寺、惣宗寺と田中家の菩提寺・浄蓮寺に分骨され、墓が設けられた。(雲竜寺のある一画だけは渡良瀬川の左岸にもかかわらず群馬県館林市下早川田町)

堤防上に戻り、上流に向かって下り、県道をくぐり、才川を渡る。渡ると栃木県佐野市下羽田町である。才川を渡って直ぐの丁字路を左折すると左側の屋敷の入口に「田中正造終焉の家」の説明板がある。

(12:28)

大正2年8月2日に、この庭田清四郎宅で病に倒れ、9月4日に死去。

現在の家屋は当時の場所から約200m北に移動していますが、正造が亡くなった部屋は当時のまま残してあるそうです。

先に進むと左側に「椿田稲荷神社」の鳥居がポツンと立っている。かつてはここから椿田稲荷神社の参道があったのだが、県道に断ち切られて鳥居だけが残っているのだ。

すぐ先で県道に合流する。その手前に可愛い「双体道祖神」、「水場 見守る道祖神碑」「三轟山夜曲歌碑」があり、合流地点に「田中正造終焉の地碑」がある。(12:35)

県道を渡り左折すると県道から階段で下りる椿田稲荷神社の参道があり(12:37~43)、赤い鳥居が立ち並んでいる。椿田稲荷神社の由緒は不明だが、境内には数多くの祠、ものすごい数の狐の置物がある。

県道を300m程進み、信号交差点を渡って左折。直ぐに車道から右への農道に入る。突き当たりを右に曲がると左手に屋敷がある。ここが「椿田城址」である。(12:52~55)水堀の内側の邸前庭に「椿田城跡」標柱と石碑ほか解説板があり、正面に立派な屋敷門そして左手に「赤松福地家守護神椿田十一面観音福地堂」がある。屋敷は今も堀で囲まれている。

城跡から農道を進み、突き当たりを右折し、出た県道を渡り、東武佐野線の踏切を渡って道なりに進み、国道50号線のガードを潜って進むと左手に東武佐野線田島の駅があり、13時14分に到着。

13時39分発館林行きに乗る。



愛宕神社



長良神社



五宝寺



馬頭観音石仏群



雲竜寺 田中正造の墓



田中正造翁終焉の地碑



椿田稻荷神社